再び市民諸氏に訴ふ

『軍隊も警察も意の儘にして見せる！と』豪語した天野社長！我々爭議團はあく迄戰はざるを得ず！

敬愛なる市民諸氏よ

私達が此度決行するに至つた爭議に干し、絶大な御同情を寄せられたことを感謝します

私達の要求が如何に妥當なものであるかは、天野社長自身が『要求の項目は成程妥當である……』と言つたことに依つても、明白であります。

然らば、何故社長は此の妥當な嘆願を聞き入れないか。それは即ち、私達が今日まで、只温和しく、撲られても、蹴られても、御無理御尤で働いてゐたので、社長は私達を全るで昔の奴隷の如く考へ、爲に、『奴隷が社長に向つて要求するなんて怪しからぬ』と思つてゐるのです。

成程、最近まで、全く奴隷の樣に踏付けられて來ました。然し、假令私達は、奴隷でも何時かは目覺める時が來ます。今おそまき乍ら、目覺めました。それを會社では『生意氣だ』と言ふのです。のみならず、

私達勞働者をおどかすことを替へて『軍隊でも警察でも俺の意に儘になると』か『國家産業の爲に會社が潰れる迄戰ふとか』或は『職工の背後にある日本勞働組合評議會が不可ぬ』と言つて窮迫した私達勞働者の生活を全然考慮せず、只ひとへに、弱いもの同志團結してゐること『生意氣』と言ひ『怪しからぬ』と言ふのです。

公平なる市民諸氏よ！

之れ果して、大正の聖代に生きる人間の言葉でせうか。『軍隊や警察を意の儘に使つて見せる』等と聞いては私達は斷固として默過する譯には行きません。私達のみならず、市民諸氏におかれても、斯の如き國家を無視し、軍隊や警察を自己の使用人の如き態度を執る

社長天野の暴言を「當然なり」と

默過される可きでないと確信します。

更に『國家産業の爲』と社長が言ふのなら何故、極めて妥當な嘆願をも斥けて、一千三百有餘の勞働者が、どうしても罷業せざるを得ない樣な窮地に逐入れて、平然としてゐるのでせう。

最後に、諸氏に一言したいことは會社側が口喧しく言ひ振らしてゐる所の『背後にある日本勞働組合評議會が煽動して爭議を起さしめた』と言ふことです。

成程私達の多くは無學無智です。未だ勞働問題も、共産黨も、何であるか詳しく知りません。只、望む所は、工場の中に、便所を設け、食堂を樹て、作業に使ふボロなどを消毒し、賃銀なども、もう少しあげて欲しいと、言ふことです。

その私達の望みがうまく徹る樣に、弱いもの同志團結してゐるのです。今若し私達が團結することを止めたなら、會社は直ちに得たり賢しとばかり、一人〳〵呼び付けておどかし、今迄の如く

撲られ蹴られ尚一言の文句も

言へぬ狀態に墜し入れることは明らかです。

故に私達は、私達の生活を維持して行く必要上先づ團結し、穩かに、最も妥當な嘆願をしたのです。斷じて、煽動されたのでもなく、輕擧盲動してゐるのではありません。

ストライキを決行することは、私達としては餘程の覺悟と決心がなければ、出來得ないことで、少數の煽動や、輕々しい考へから起し得る程而く容易なものではありません、全く生命がけです。